

NO	地区名	Q1 1はい 2いいえ	Q1 社会福祉法人や民間企業と協力し、既存の住民福祉大会等を活用し、様々な年代や多様な住民が参加できる学びの場を設けましたか。	Q2 1はい 2いいえ	Q2 福祉サービス事業者が地域ニーズを把握する場として地域の福祉関係者と情報交換を行うような機会を設けましたか。	Q3 1はい 2いいえ	Q3 民生委員・児童委員や福祉推進員といった地域の担い手の役割を住民に周知していますか。	Q4 1はい 2いいえ	Q4 隣近所において、お互いに気にかけてる関係を築くため、日常生活単位で行われているサロン活動等がありますか。	Q5 地区において、見守り体制の整備に努めていただいていると思いますが、具体的な取組内容や体制について教えてください。
1		2	(課題) 様々な年代や多様な住民が参加できる学びの場となる事業はない。 今後新事業として立ち上げていくことになる。その際内容にもよるが、地区住民を引き寄せるものにするには、準備が必要。	1	(取組み内容) グループホームの推進会議に出席。	1	(取組み内容) 福祉に関することをお知らせする回覧に掲載。	1	(取組み内容) 7地区で9グループが活動 誰もが気軽に集まり交流している。	要支援の方に対して災害時の際に誰が対応するか、マッチングしている地区がある。 全地区で取り組みが進むよう、区長を中心に体制を整えている。
2		2	現在、上記学びの場を設ける必要性がないため。	1	年1回開催している生活支援体制整備検討会にて、地域ニーズを含めた情報交換を行っている。	2	必要性を感じていないため。 今後、必要になった場合は対応していきたい。	1	行政連絡区が16区のうち、11区でサロン活動が行われている。 お茶のみで交流を図るほか、バイオリンやピアノの生演奏で歌を歌ったり、落語・マジックショー・読み聞かせ。また、カーリンコンなどのゲームや体操・ヨガなどを取り入れたり、市の出前講座(認知症について・特殊詐欺防止など)を依頼するなどして、参加の皆さんが飽きず楽しめるよう、それぞれのグループで工夫されている。	住自協で把握している具体的な体制としては、民生児童委員の見守り活動の他は特になし。 今年度、第二次 第二地区地域福祉計画を策定していく中で、住民が、ゴミ捨てや雪かき等にご苦労されていることが分かった。民生委員だけでなく、ご近所でのたすけあいが活性化すれば困りごととも減ると考えられるが、どうアプローチしていくか具体的な方策は未定。次年度以降、住自協役員だけでなく、一般住民も含めた有志の会(案)を立ち上げ、その中で検討していくことを検討中。
3		1	1. 共同で毎月オレンジカフェを開催 2. 共同で毎月子育てサロンを開催 3. 「ながの協働ネット」主催の地域まるごとキャンパスを利用し、県立大生参加の地区お祭りスタンプラリーを開催 4. 事業者と共同でおせち料理教室を開催 5. 共同で認知症VR体験講座を開催	1	毎年5月・・地区福祉保健部会にて地区福祉関係者の他、地域包括支援センター、保険センター等交えて年度計画の情報交換を実施 毎年2月・・上記メンバーで年度の事業報告と次年度の計画についての情報交換及び計画の審議を実施	1	1. 協議会日より、協議会ブログで行事や取り組みを住民に周知 2. 福祉ワーカーが町のサロンに出向き、各町の福祉推進状況を「ふれあい通信」にまとめ、年に4回発行して住民に周知	1	地区の町ごとに福祉推進員が中心となり、サロン活動を実施。又、毎年テーマを決めて町ごとに地域福祉懇談会を実施している。 令和元年度は、10町合計で地域福祉懇談会10回、サロン活動42回実施した。	1. 民生児童委員の訪問活動の他、避難行動要支援者に対し、災害時の協議会及び各町の支援者リストを配布し、要支援者が災害時誰に支援を求めればいいのかを周知している。 2. 地区全体で「ふれあい会食」をホテルで実施。70歳以上の家に引きこもりがちで町のサロンにも参加しない方をできるだけ参加を呼び掛け、町の民生児童委員や福祉推進員に引き継いでいる
4		2	住民からのニーズがないため	1	隔月に民生児童委員協議会定例会に出席して、地域ニーズに最も接している民生委員の意見を聞く機会を設けた。	1	住自協の広報誌に民生児童委員の活動内容を掲載し、住民への周知を深めた。	1	地区6町中、5町で、年3～5回開催している。	質問趣旨とは若干異なるが、現在、地区に避難指示等が発令された時の歩行が困難な方の避難を、住民の力を借りて無事に完了させる方策を部会横断的に検討を重ねている。
5		1	民間企業と、施設長を窓口にお出かけサロンや運動会などに出向いていただき、健康セミナーやレクなどのアドバイスを受けている。 施設で行われる夏祭り等にも、住民周知をし、住民参加があり、地域との交流も図っている。 フィットネスクラブは、今年度から参加し、地域住民に案内パンフレットを配布し、地域との繋がりを重視している。	1	Q1にあるように、地区内にある福祉関係の業者と連携し、住民が参加しやすい体制と、住民福祉の向上に協力する気運が出来てきた。	1	各町で行われる、サロン等の企画に携わり、人権問題などの研修を行っている。	1	温度差はあるが、全ての町でサロン活動が立ち上がった。	避難行動要支援者名簿に基づき、民生委員と連声しながら、区役員を中心に、見守り名簿を作成し、避難訓練とあわせて、実施している。

NO	地区名	Q6 地区における地域福祉推進の取組として、特に大事だと考えている取組を5つ紹介してください(Q1～Q5までの取組と重複可)。 エピソード1	また、取組によって「こんなことが起こった」というような紹介したくなるようなエピソード等があれば併せて紹介してください。 エピソード2	エピソード3	エピソード4	エピソード5	その他(意見)
1		要支援者に対して、避難する際の手順、人員等を明確にする。	地域たすけあい事業を浸透させると同時に、協力会員の増員。	全地区でのお茶のみサロンの開催。実施内容等負担にならないように、成り手の方を探したい。	4～5人からの「はつらつ体操」の取り組み	年に一度行う「ふれあいの集い」(概ね75歳以上で独居または日中独居のお年寄りに声掛け)は、大勢(約100名)の皆さんと、脳トレや保健師さんのお話、お昼を食べることを実施。その際に、お年寄りの困りごとが直に聞けるいいチャンスでもある。	
2		(1) 区のサロン活動や自主的な介護予防活動。また、区単位の行事・事業等。気軽に参加でき、地域の中で交流を図ることのできる取組み。普段の、日常のつながりが住みやすい地域に感じる＝地域福祉と考えると、上記の取組は大変重要であると思います。課題は、参加者がほぼ同じ。参加者増の工夫が必要。悩みどころです。	(2)「子育てサロン」 地区内の方ももちろん、転入者で、お友達が近くにいないという保護者の声も聴きます。安全に子供を遊ばせながら親同士が交流を図れる子育てサロンは、今後も必要だと考えます。以前、保健センターの紹介で、初出産で、不安を抱えたママさんが参加したこともあります。マタニティの方の参加も促せたらと考えます。	(3)「男性の地域参加事業」 地域の集まりや講座等は女性が多く、気が引けるとの男性の声もあります。参加者を男性に限定することで、内にもりがちな男性が地域に一步踏み出しやすくなり、孤立防止につながります。男性の、「～～～やりたい」の声を活かした活動を心掛けていきたいと考えます。	「地域たすけあい事業」 「助けてほしい」と声を上げやすく、コーディネーターさんはきめ細やかに対応くださる、地域に根差した事業。料金設定も低く、利用しやすい反面、家事援助は協力会員の不足に悩まされている。	「地域福祉懇談会(地区全体)」 6～8人の少人数グループで行うことで、情報や思いを共有しやすく、地域間の交流にもつながります。今年度地区全体で初めて開催したのですが、どのグループも意外に話が盛り上がり、時間が足りなかった印象があります。今後も継続して開催し、地区全体から、各区へ「グループ懇談・意見交換」の手法が広がればと考えます。	地域福祉は大切なことと思いますが、ご近所づきあいが薄れている現代においては、どのように進めていけばよいのか悩みます。人の気持ちに前提があるので、強制できるものではない。人は暖かい、人付き合いは良いなと思ってもらいたい。けれど、近所づきあいは億劫な面もある。思いと、相反する現実が、地域にも自分の中にもあります。
3		令和元年9月、小学校と共同で地区防災訓練を実施。小学校生徒・教職員、地区住民が参加して市内でも初めての防災訓練を実施。特に防災倉庫の備品を使った避難所生活体験や日赤奉仕団による炊き出し訓練は普段できない体験だった。直後に台風19号被害があり、地区に被害はなかったものの防災訓練の重要性を認識した。福祉推進員も多数参加。	防災士の育成と町のお茶のみサロンでの防災研修 地区では防災士17名を育成し、各町で防災研修を実施。特に避難行動要支援者への対応や、実際に災害が起きたときどう行動したらいいかをゲーム形式にしてチームで議論して住民の理解を深めている。	認知症サポーター講座を実施 平成29年度からオレンジカフェを実施しているが、今年度初めて認知症サポーター講座を開催したところ、60名もの参加があった。サポートする側にも大きな関心があるテーマだと改めて認識した。	地区お祭りスタンプラリー 地区各町のお祭りを子供が巡り歩く「お祭りスタンプラリー」がすっかり恒例行事として定着し、参加する子供も年々増えている。子供以外に親や祖父が参加してくれるので、町の行事への参加率も上がり、役員候補も増えてきた。	健康運動促進 健康寿命の促進やフレイル対策として、各町での活動と並行し町を越えたグループでの活動を支援し、成果が出てきた。特に申請手続きが複雑な補助金申請支援や関係団体活用の支援に力をいれた。	1. 福祉ワーカー、生活コーディネーターの仕事が年々増えてきている。本来行政がすべき仕事まで地域中心という名目でやらされている感が強い。補助金の増額による福祉ワーカーの増員を検討したい。 2. 健康運動促進事業補助金の申請が複雑すぎて、とても町の福祉推進員では申請できない。もっと簡略化して欲しい。
4		災害発生時の非健常者の避難援助	健康寿命延伸のための健康体操教室の開催 地区内2か所で、毎月6～8回開催し、参加者は少ないときでも15名ほどを教え、楽しみに通っている方も散見されるようになった。	中心5地区たすけあい事業への積極的な関わりと応分の負担	令和元年8月に見直された洪水ハザードマップに、地区内で初めて色がついた地域が出たため、全世帯に普段から「我が家の避難場所」を家族で話し合い、その避難場所を記載できるようにした掲示物を配布した。今後も、地域住民の安全・安心に資する物は積極的に伝えるようにしていく。	住民のニーズをくみ上げるため、民生児童委員との連携	
5		地区には、地域福祉推進委員は居ませんし、組織も自治協はもちろん、各区にも組織はありません。「地区住民との交流で、人を知る」と言うことを重点にしています。そのために、各町にサロン活動を立ち上げ、何らかで住民同士の交流を深めたいと、福祉ワーカーを中心に、各区長の協力を仰いでいます。					

NO	地区名	Q1 1はい 2いいえ	Q1 社会福祉法人や民間企業と協力し、既存の住民福祉大会等を活用し、様々な年代や多様な住民が参加できる学びの場を設けましたか。	Q2 1はい 2いいえ	Q2 福祉サービス事業者が地域ニーズを把握する場として地域の福祉関係者と情報交換を行うような機会を設けましたか。	Q3 1はい 2いいえ	Q3 民生委員・児童委員や福祉推進員といった地域の担い手の役割を住民に周知していますか。	Q4 1はい 2いいえ	Q4 隣近所において、お互いに気にかけて関係を築くため、日常生活単位で行われているサロン活動等がありますか。	Q5 地区において、見守り体制の整備に努めていただいていると思いますが、具体的な取組内容や体制について教えてください。
6		1	平成30年度は、NPO法人代表の「よりよく生きるために」をテーマに講演会と二部制で、小学校の生徒が地域と福祉事業所との交流会について発表。 令和元年度は、高校の校長から「地域と共に一人ひとりの生徒を育てる」をテーマに講演会と二部制で、フィーリングジャズバンドの癒し音楽を聴く。参加して学び楽しめる内容に工夫する。	1	地域包括支援センターと地域ケアマネージャー、薬剤師等と対象者について情報交換を行う。	1	住民への周知方法がどのようにしたら良いか分からない。 福祉推進員には、市社協のセミナー参加を周知し福推の役割を分かってもらう。	1	各公民館でお茶のみサロンや子育てサロンを実施している	見守りについては、お茶のみサロン、ふれあい会食、はつらつ体操教室を地域で実施して見守りを兼ねてもらっています。
7		2	多様な住民が参加する企画は、「学びの場」含めて一つもありません。多分、かなりの労力になってしまうことなので最初から取り組むことをためらったか、そこまでの発想はなかったか、必要性がなかったか・・・ではないかと思えます。 将来は、住民誰もが参加できて、活発に交流も、「学び」もある福祉大会ができればいいなと個人的には思います。	1	福祉関係団体との間では「情報交換会」と「福祉関係団体長会議」の年2回の会議が開催され、情報の交換を行っています。 支所と包括支援センターの主催によるネットワーク会議が年1回開催されますが、そこではもっと細かなニーズの把握ができるようにワーク形式で行われています。住自協も参加し、ワーカー、コーディネーターは運営に協力しています。	2	意識的な周知はしていませんが、なんとなく広報を通じて掴んでほしいという希望的観測です。 各区で行う福祉懇談会ではそこまでの細かい話をしているのかどうかつかんていませんが、「福祉のあらし」のような内容でレクチャーすることで周知できるものと思います。	1	「隣近所において」とは“区ごと”ととらえれば「はい」です。が、“隣組”あるいはもう少し広いエリアであっても「いいえ」です。 「お茶のみサロン」「ふれあい会食」は全区で区の公民館を会場に行っています。「健康塾(健康体操)」も8割の区で定期的に行われており、「健康サロン」となっています。 隣近所で「えんがわ」が行われている所も1~2か所あります。	「友愛訪問」「一人暮らし高齢者訪問」「高齢者訪問」など名称も内容も各区で違い、担い手も民生児童委員単独、福祉推進員単独、両者などで、形もちがっていますが体制はとれています。たすけ合い会員の見守りは他の依頼内容と併せて社協の事業として取り組まれています。(有償)
8		1	H28年 第2回 講演会「認知症の課題を自身のこととして捉える」 H29年 第3回 表彰と地域の活動発表(サロン、はつらつクラブ) H30年 第4回 講演会とグループワーク「支え合いの地域づくり～身近な地域の課題から」 R元年 第5回 表彰と講演会「認知症を知って行動しよう！」	1	令和2年度は地区オレンジカフェに福祉事業者の方にも見学にきてもらいご参加していただく予定。	1	お茶のみサロン等で紹介。	1	・お茶のみサロン ・はつらつクラブ	小地域で隣組の付き合いの大切さを伝えている。
9		2	地区の福祉委員会が中心となってやっている。	1	地区情報交換会	1	各地区で、民生委員・児童委員や福祉推進員等に参加してもらい、合わせて周知をはかっている。お茶のみサロンや福祉懇談会を開催している。	1	お茶のみサロンや福祉懇談会、健康体操など地区公民館を借りて各地区で行っている。	要介護3以上の在宅で寝たきり状態の方々のご家族に対して福祉委員が該当するお宅を安否も兼ねて訪問し、寝たきり助け合い事業として夏と年末に見舞金をお支払いしている。
10		1	地区福祉大会を長野市地域包括支援センターと共催し、認知症サポーター養成講座を開催した。また、事業者に依頼し、生活補助具(自助具)・栄養補助食品について講演をして頂いた。	1	こどもカフェ開催にあたって、地区内福祉事業者に協力を得て、会場の提供、人員(ボランティア)の協力を得ている。 今後、オレンジカフェの開催について更に他の福祉事業者にも協力を仰ぎ、開催の可能性、方法等について相談、検討していきたい。	1	地区および各区内での活動については、その都度回覧等で案内している。 現在福祉推進員の活動についてまとめているため、広く地域住民に周知するためのツールとして活用していきたい。	1	地区内各区単位にお茶のみサロンを開催している。 また、ふれあい会食などを開催している区もある。	区によって、区内の体制づくりを構築しているところがあるが、まだ全区で構築されてはいない。 今後、一定のフォーマットを作成し、それを叩き台として各区の実情に合った体制づくりを進めていく予定。

NO	地区名	<p>Q6 地区における地域福祉推進の取組として、特に大事だと考えている取組を5つ紹介してください(Q1～Q5までの取組と重複可)。</p> <p>エピソード1</p>	<p>また、取組によって「こんなことが起こった」というような紹介したくなるようなエピソード等があれば併せて紹介してください。</p> <p>エピソード2</p>	エピソード3	エピソード4	エピソード5	その他(意見)
6		<p>地区管内3校の中学生、福祉事業所、地域役員との認知症について学ぶ講話と交流会を実施しました。認知症については施設職員が介護をして起きたエピソードや認知症はこんな病気と道具などをつかって分かりやすく説明し、施設内の見学をして介護現場このように工夫されて作られていることを学びます。交流会では、認知症について学んだこと実践です。目線に合わせてゆっくりと話しかける。優しい表情で対応する。同じことを繰り返し言っても自尊心を傷つけない。守って交流しました。終わりの会では、別れが寂しくて涙を流すおばあちゃん、「また施設に遊びに来たい」と言う中学生そのやり取りをみて周囲は、ホックリしました。</p>	<p>施設職員と一緒に子育て講座を開催 保護者向けの講座として、子どもの心理を読み取った対応や子育て情報、悩みやアンガーマネジメントを学ぶ。家の中にずっと子どもと向き合っているとストレスが溜まり怒ってしまうと悩んでいるお母さん達が講座に参加することで、アドバイスをもらい癒されて、地域と繋がりが感じてもらえるように工夫しています。心理士さんが講師として来ているので、顔が見える関係になり相談しやすい。参加者同士のつながりが出来ましたとの感想をいただきました。食品関係の企業さんにも協力をいただき食育で成長期の子どもや大人にも身体に良いレシピの試食会をしました。食品の試供品、子育てに関する情報パンフレットをお土産としてお渡ししました。</p>	<p>特別支援学級の先生から何かボランティアをしたいとお話がありました。地域の方からフェイスタオルの寄贈がありそれを雑巾に作ってもらいました。その雑巾は、各公民館に紹介文を付けて配布しました。雑巾の寄贈式をした時に、社協会長が雑巾のお礼として花種と肥料とプランターを生徒さんにお渡ししました。その花の種を育てて、地域で開催した花苗交換会で中学生が販売しました。その売り上げは、支援学級の活動資金にしました。またそこから、中学生が社協役員さんたちを招待して一緒に手打ちうどんを作り食べました。交流が続きました。</p>	<p>福祉推進委員さんの活動の記録として写真やチラシなどを、年度初めに依頼をしました。1月の福祉大会で、福祉推進活動の総まとめを模造紙に作成して当日掲示します。区によっては福祉推進委員さんが、集まって活動を作成している区はお茶のみサロンで作った折り紙を貼ったり写真を拡大し、チラシを縮小して貼り付けたりと工夫しています。他の区の情報交換になります。</p>	<p>福祉パワーは地域コミュニティーを目的として開催します。地域で不要になった品物を提供していただき、販売します。仕分け値付けは、福祉推進委員さんが集まってオシャレにラッピングやお宝袋を作った工夫して品物を売れるようにしてくれます。小学生の販売コーナーを設け売り上げは、学級活動資金にします。JA女性部の方が花や野菜を販売し、キッチンカーがイカ焼きを販売し賑わいになります。高校の生徒さんがボランティアにきてくれて地域の方と交流しながら販売員をしてくれます。</p>	<p>福祉活動には、皆さん熱量に差があります。例えば・・・ ① はつつつ倶楽部(健康教室)の重要性を研修会で理解してくれた福祉推進委員長が自治区に持ち帰り提案すると委員さんは反対。まずは、お試しからとお話しても納得してくれずそのまま実施できずに。仕事が増え負担になるのが嫌なのが理由との事です。 ② ふれあい会食についても、手作りの食事が負担。もし食中毒や何かあったら誰が責任を取るのか？検便しなくていいのか？と福祉推進委員さんからの意見と参加者からの意見は手作りの温かい食事を食べたい。お弁当ではいつも食べているから味気ない。どこかに連れて行って欲しい。などの意見。双方の意見に解決策が難しい。 ③ 講座についても、どのように周知したらいいのか？参加人数が、その時によって違う。参加しやすい参加してみたい内容はどうしたらいいか？このことについては、サロンなど地域の交流に、家から外に行かない人をどのように連れ出すかも役員さんが抱えている課題です。</p>
7		<p>「健康塾」に取り組んで丸4年半が過ぎました。地区全体から参加者を募る“こまき”と、8割の区で行われている、各区健康塾(名称は他に“健康体操”“クラブ”など)は、高齢者の皆さんの楽しみになっており、フレイル予防、一般介護予防事業として取り組まれています。その担い手として住民ボランティアの「ほんわか健康応援隊」を養成し、各区健康塾などでリーダーとして活動しています。</p>	<p>世代間交流事業として、「グランドゴルフ」、「マレットゴルフ」に取り組んでいます。小学生～高齢者まで、毎回100人を超す参加者があり、核家族化や少子高齢化など世代を超えての交流が薄くなっている現代社会的では貴重な取り組みです。心の豊かさや身体健康づくりとしても良い取り組みであるのではないかと思います。</p>	<p>「3ゴルフ」と呼んで取り組んでいるのが、「親睦ゴルフ」です。毎回100人を超す参加者があります。区民同士の交流という目的と併せて、地域の活動に関心をよせていただく場になっていることも期待したいです。</p>	<p>年間通していくつかの講演会活動が行われ、活動の裏付けとなる理論的な学びの場となっています。&lt;4月&gt;「福祉推進員・保健補導員研修会」&lt;5月&gt;「地域福祉大会」、「歯と口の健康」&lt;7月&gt;「病氣と健康」&lt;10月&gt;「福祉推進員・保健補導員研修会」&lt;12月&gt;「食と健康」&lt;2月&gt;「運動と健康」などがあります。( は保健補導員が主催)他にも、「ほんわか健康応援隊養成講座・ステップアップ講座」、「介護者のつどい」などでも技能講習が行われています。</p>	<p>仲間づくりを目的にした事業がいくつか行われています。「男性の料理教室」、「一人暮らし高齢者のつどい」「介護者のつどい」は、技術の向上という目的と「同じ趣味をもつ人」・「生活形態が似ている人」・「同じ悩みをもった人」同士が参加・交流して生活のクオリティを高めることに貢献しています。ただ、目的の仲間づくり(自主グループの形成)には至っていないのは課題です。</p>	<p>高い福祉力の構築には困難さを感じています。というより「無理」だと感じています。福祉推進員(役員体制)も区によって違いますが、役員の任期が1年、長くても2年と交代していきます。活動を理解しかかったところで交代となってしまいます。役員のなり手もない状況もあります。また、福祉ワーカーとは名ばかりで、福祉を学んだ訳でもなく、理解している訳でもなく、こうあるべき姿も描けない。目の前の仕事に全力で向き合うだけ。やりすぎると疎まれる。そして、今の資金では社会的に認知された資格をもったワーカーなんて到底雇えない行政の事情もあるのだろう。それではダメでしょ！っていつも思っています。“なんちゃってワーカー”のつぶやきです。</p>
8	<p>隣組の人との交流 例:年1回～地域公民館を利用して交流会</p>	はつつつクラブ	お茶のみサロン	地区ボラティアセンターの活動	オレンジカフェ	<p>○やる気のある人が先頭に立ってやっていくことが大事。 ○身近なことを、少しずつプラスαして実践していくこと。 ○独り暮らしの人で、こもっている人はどうすればいいのか。</p>	
9	地区の情報交換会	地区の独居の高齢者の見守り活動	お見舞金の交付	地域のお茶のみサロン事業	福祉自動車、家事援助		
10	地域住民同士の助け合い 日頃生活する近所の住民同士で支えあい、助け合えるシステム作りが必要。	居場所づくり 各区でお茶のみサロンやサークル活動を行う事で、集いの場が形成されている。今後、まちの縁側についても取り組んでいきたい。	ボランティアの育成と活躍の場づくり 10月の台風19号による災害の際、地区内にも被害が生じるとともに避難所も複数設置された。その際、地域住民がボランティアとして避難者の生活支援、復興支援を行った。地域住民の底力を垣間見る事が出来た。	介護予防・日常生活支援総合事業への取り組み 地区での健康体操、各区内グループによるはつつつ体操を開催。 はつつつ体操については、今後グループの数が増えるよう、福祉健康委員等の協力を得ながら進めていく。	地域からリーダーとして活躍できる人材の発掘・育成をする。 住民から子どもカフェを開催したいという相談があった。 ちょうど地区内福祉事業者から、地区への協力の申し出を頂いていた時でもあったため、双方のマッチングを取り、開催に至り、ほぼ毎月開催している。	認知症サポーター養成講座を開催することで、今後、特にオレンジカフェを開催する事となった場合のボランティアとして、また、日常生活内でも認知症者に対する支援が行える知識、そのきっかけは得られたと思う。	

NO	地区名	Q1 1はい 2いいえ	Q1 社会福祉法人や民間企業と協力し、既存の住民福祉大会等を活用し、様々な年代や多様な住民が参加できる学びの場を設けましたか。	Q2 1はい 2いいえ	Q2 福祉サービス事業者が地域ニーズを把握する場として地域の福祉関係者と情報交換を行うような機会を設けましたか。	Q3 1はい 2いいえ	Q3 民生委員・児童委員や福祉推進員といった地域の担い手の役割を住民に周知していますか。	Q4 1はい 2いいえ	Q4 隣近所において、お互いに気にかけて関係を築くため、日常生活単位で行われているサロン活動等がありますか。	Q5 地区において、見守り体制の整備に努めていただいていると思いますが、具体的な取組内容や体制について教えてください。	
11		1	H28 「ご近所パワーで助け合い起こし」住民流福祉総合研究所の講演 H29 「高齢化社会を元気に楽しく生きるコツ」全国コミュニティライフサポートセンターの講演 H30 「認知症の取材と認知症の母に思うこと」信濃毎日新聞編集委員の講演 H31 「地球からの贈り物—温泉と健康」信濃毎日新聞編集委員の講演	1	・平成25年度「ふくしネットワーク」を設立。地域包括支援センター職員、地区内の介護保険事業者、医療、司法関係者、住自協役員、地域福祉ワーカーで構成。毎月、ふくし相談会を開催。地域の課題に対し解決策を検討したり、情報交換等、3か月に1回「ネットワーク会議」を開催している。 ・平成27年度ふくし相談会を廃止し、3月に認知症カフェを設立。 平成31年度に2か所目のオレンジカフェを設立。構成員の他に地域住民ボランティアを巻き込み、以降毎月オレンジカフェを運営している。	1	各区で開催しているお茶のみサロンやふれあい会食会などを、民生児童委員や福祉推進員が担っていることで、参加する地域住民はそれぞれの役割を知ることができている。	1	5地区において、お茶のみサロンを開催している。区によって形態は違い、毎月開催のところや年3回、1回など様々である。	① わんわんパトロール隊を組織。愛犬と散歩しながら自主的に地域内のパトロール活動を行うことにより、地域の子供たちやお年寄りを守り、身近に発生する防犯などの未然防止を図っている。この活動を通して、人も犬も誰もが安心して暮らせる美しい地域づくりを目指す。 ② オレンジカフェや介護予防クラブ等通いの場の創設。これらに参加する地域の人たちの見守りができている。 ③ ほっとリンクステーション創設 誰もが気軽に立ち寄れ「ほっとつながる場所」として、毎月1回1カ所で開催している。様々な仕掛けをして、参加する住民が毎月楽しみに集まってきており見守りができている。ただ、固定化しているのが課題。	
12		1	H29年度 「悪徳商法とその対策」講師：落語家三遊亭 白鳥 共催：消費生活センター H30年度 「生まれてきてよかったと思える社会を」共催：消費生活センター 「浅川社会協議会の取り組みについて」社協会長より説明 H31年度 「介護保険制度について」講師：介護保険課 「助け合って暮らすまちづくり」は、なぜ必要？講師：地域包括ケア推進課 「福祉健康部会の活動紹介」部会長より説明	1	*福祉健康部会(年2回開催) ・「健康委員会」「民生児童委員協議会」「赤十字奉仕団分団」「身障協支部」「老人クラブ連合会」「保護司会」「更生保護女性会」「社会福祉協議会」「放課後子ども総合プラン」9団体の代表が一堂に会し、各団体の現状・課題等の情報交換を行う。 *地域福祉懇談会 ・平成30年度より19地区に依頼し地域福祉懇談会を開催。 ・平成30年度は、各地区の現状・課題・ニーズに関する聞き取りをグループワーク形式で行った。 ・平成31年度は、昨年度のワークの振り返りかえりプラス地区課題に対し「今、自分にできる事・できそうな事」をグループワーク形式で一緒に考えました。 *地区内グループホーム等の運営推進会議への参画 *生活支援体制整備事業・検討会の設置 ・平成30年3月発足。 ・地域福祉懇談会での意見を基に現状・課題・ニーズの把握を行い、検討会として取組める事を協議。 ・今後の活動創出等の基盤・指針となる「支え合い活動計画」を策定。(令和2年3月発行・地区内全戸配布)	1	・毎年5月常評・区長会にて市政出前講座「生活支援体制整備事業」についての説明会を開催。および「福祉推進員活動の手引き」の配布。 ・平成30年度・31年度の地域福祉懇談会には必ず区長・民生児童委員・福祉推進員等役員と住民の参加を求め「地域での支え合い・助け合い」についてグループワークを開催。 ・毎年認知症サポーター養成講座を開催。(小4年児童と合同) ・生活支援体制整備事業・検討会にて発行の「ささえ愛・ふれ愛」にて周知。 ・平成31年度地区住民福祉大会にて「助け合って暮らすまちづくり」は、なぜ必要？講師：地域包括ケア推進課よりご講演頂き、「福祉健康部会の活動紹介」を部会長より説明。周知活動を行なった。	1	・各地区の民生児童委員による「ふれあい会食会」「見守り活動」 ・各地区の福祉推進員による「お茶のみサロン」 ・各地区の健康委員による「健康講座」 ・クラブ(はつらつ体操) ・けんこうクラブ(はつらつ体操)	1	・支え合い活動計画に「見守り」を項目として掲載。重要性の周知・啓発を行っている。 ・見守りカードの発行(検討中) ・「お茶のみサロン」等への参加促進の為、近隣への声掛け
13		1	住民福祉大会の開催 H28年 飯山赤十字病院院長「糖尿病予防講演会」 H29年 CLC池田先生講演「地域の中で自分らしく暮らし続けるために」参加者全員で意見交換 *長野市社協と共同開催 H30年 パネルディスカッション「こんな子どもの居場所があったらいいな」長野県長寿社会開発センターの協力 R元年 パネルディスカッション「誰もが安心して暮らせる地域を目指して ～障がいを理解し、一緒に地域づくりを考えよう～」皆神ハウス・地区内の障害者関係の施設の協力	1	●2/7(金)地域まんまるin「介護者の声が聞きたい」を開催 介護している当事者の体験を聞き、地域でできることを考えた 地区内外の介護保険事業所、ケアマネが参加 ●オレンジカフェ設立に向けての情報交換会 ●地区内介護保険事業所連絡会に出席 ●喫茶を事業所と共同で開催(1回のみ)	1	●第三次地区地域福祉活動計画の中に団体の紹介を記載 ●広報誌に活動の様子を掲載 ●各区に地域福祉部会を設置し、お互いの活動を知り顔の見える関係を作る ●地域福祉懇談会で各団体の紹介	1	●福祉推進員と民生委員児童委員が行っている「お茶のみサロン」 ●老人クラブ、常会で行っているサロン ●「はつらつ体操」を中心とした健康増進の活動(毎週開催)	1	●見守りネットワーク事業 「ご近所支え合い・見守りガイド」(全戸配布)を活用しながら、班長・常会長を中心としたネットワークを広めていく
14		2	福祉大会に企業・施設に案内していない。あまり参加がみこめない	2	地区社協の忘年会上に案内しており、ケースワーカーなど出席してもらっている。また、社協の地区別福祉懇談会に、地域の施設に出席依頼しており、出席してもらっている。	2	特に広報はしていない。民協は独自に研修会を持ち、福祉推進員研修会は社協が主催している。民生委員は個人に個別に対応し、福祉推進員は、お茶のみサロンを通じて対応。	1	区単位で地域公民館を会場に実施している「お茶のみサロン」8か所、「健康体操クラブ」7か所のほか、オレンジカフェ3か所	各区の常会(部会・丁目)別に、防災につながる「支え合いマップづくり」(元気なまちづくり補助事業)を進める。 進んで、小地域で気になる人・世帯に対して、どのような支援ができるか話し合う場を設けたい。	

NO	地区名	Q6 地区における地域福祉推進の取組として、特に大事だと考えている取組を5つ紹介してください(Q1～Q5までの取組と重複可)。  エピソード1	また、取組によって「こんなことが起こった」というような紹介したくなるようなエピソード等があれば併せて紹介してください。  エピソード2	エピソード3	エピソード4	エピソード5	その他(意見)
11		「アヤメの里復活大作戦」 駅のあやめは毎年ニュースになっていたが、今は忘れられつつある。この遺産を生かしアヤメの咲く当地区はもとよりお花いっぱい運動を展開し、これを通じて景観や環境の改善、住民同士の交流、地域活性化をすすめる目的で、平成27年度より復活大作戦を開始。活動により、駅のアヤメは見事に復活し、地域住民や電車の乗客の目を楽しませている。また、3年前から毎年5月に「あやめ祭り」を開催。地域住民の交流の場となっている。31年度には「あやめの会」が誕生し、地域住民が草取り等あやめの管理をしている。 今後も地域の中にアヤメが咲く場所を増やし、アヤメの里にふさわしい地域づくりを推進していく。	「認知症カフェ開設」 年々認知症になる人が増えつつある中、地域に2か所のオレンジカフェを開設。ふくしネットワークの構成員と認知症サポーターなど地域住民のボランティアが運営し、認知症の方とそのご家族、地域住民が集い、不安や悩みを話したり、おしゃべりや歌で楽しい時間を過ごして帰っていく。悩みや相談がある方には専門家である地域包括支援センター職員や介護保険事業者が対応に当たっている。また、認知症サポーター養成講座を毎年開催。小学校4年生の児童と保護者を対象に毎年11月に実施。地域住民を対象に年1回実施。地域で気になっていた認知症の家族(男性)の方が講座に参加して、日頃の悩みを吐露し笑顔になり、オレンジカフェにお茶飲みにくるよと言って帰って行かれた。他の参加者も早速来月からオレンジカフェに来たいと言って帰って行かれたのでよかった。	「雪かき隊ボランティア」 結成から16年、現在4区で50名のボランティアが活動している。 毎年、シーズンの終わりに、隊長会議を開催し地域の課題、反省点等を話し合っている。毎年ボランティアの募集を行い地域の支え合い、見守りにつなげている。 また、事業は違うが、利用者の資源回収等の困りごとにも対応する部分がある。	「班ごとマップ」 班ごとマップの取り組みは5年以上になるが、諸々課題があり遅々として進んではいない。近年起きている災害に役立つマップ作りが急務として、単位を区毎にして、マップ作りを目指し取り組み始めている。	「ほっとリンクステーション」 誰もが気軽に立ち寄れ“ほっとつながる場所”として、毎月1回1か所で開催。様々な仕掛けをして参加する住民を集め、地域住民全てに、地区で行われている活動の情報を収集・発信することを目的に取り組んでいるが、思うようにいっていないのが現状である。	
12		・地域福祉懇談会の開催。 * 地区ごとの現状・課題・ニーズの把握。地域資源の発掘。 * 地区によっては若手世代(40代ぐらい)から「お手伝い出来ます」の声が上がった。今後、その声をいかに活かすかが課題。 生活支援体制整備「検討会」の設置。 * 地域福祉懇談会で把握した地域の現状・課題・ニーズを基に浅川の現状に即した「支え合い活動計画」の策定。(全戸配布)	・オレンジカフェの開催。 * 地域包括支援センターとの共催にて開催。 * 民生児童委員が積極的に声掛けを行い、参加者の送迎も自ら行って下さっている。 * 参加者の中には「お手伝い出来ます」とアンケートにご記入下さる方も多く、いずれはボランティアグループを立ち上げたい。	・たすけあい事業「家事援助」「福祉移送」 * 高齢化に伴い需要増。 * 福祉移送協力会員10名、家事援助協力会員40名で活動。 * 家事援助は援助内容を考慮し原則2人1組で活動。 * 福祉移送は福祉自動車2台で活動。	・地区住民福祉大会の開催 * 福祉課題についての周知・啓発活動。 * 福祉健康部会(前述9団体)の取組の周知。	・男性の地域デビュー促進事業「おとこ塾」 * 多くの男性に地域デビューのきっかけとする為、仲間づくり・いきがいくづくり・男磨きのお手伝い。 * 幅広い内容の講座を受講することにより、自分にあったお気に入りの活動を見つけ、いずれはサークル活動へと繋げたい。	
13		地域福祉活動は、小さな地域を単位とした支え合い・助け合いが重要であり基本であることから、行政役員と協力団体の横のつながりを密にし、地域の情報を共有する場として部会を設置する	見守りネットワーク事業 「ご近所支え合い・見守りガイド」(全戸配布)を活用しながら、班長・常会長を中心としたネットワークを広めていく	【あいさつ運動】 誰もが気軽にあいさつすることで、住民同士のコミュニケーションが取れ、安心安全な地域になることを目指す 4月より運動がスタートするため、各区で運動の方法など検討中	【健康応援づくり】 健康で自立した生活を送るために、健康寿命をのばす活動を応援する体操だけでなく健康に関する講座も開催し、気軽に集まり、健康づくりや活動を通じた交流ができる地域を目指す	【喫茶】 総合市民センターの一角を利用して住民の憩いの場を設ける 誰でも気軽に立ち寄ってもらうことで、住民同士のふれあいの場とする	担い手不足 各区の役員の選出が難しくなっている 活動に継続して関わっている方が少ないため、事務局が主導になってしまう
14		区単位の「協議体」づくりを進める。 区の自治会と各種団体があつまり、住みよいまちづくりについて話し合う場として活用する。 現在当地区では全8区中6区に協議体があり、活動中。	地区の協議体「ささえ愛」が、定期的に会合して、各区の参加者の情報交換と、ワークショップ形式の研修会を行っている。 今後、各区協議体のマップづくりなどの活動を支援していく。	区や常会(部会・丁目)の花見など親睦行事を奨励。 ふるさと夏祭り、市場の開催。	防災につながる「支え合いマップづくり」を常会単位に進め、問題解決のために話し合いを進める。	長野市のはつらつ体操クラブづくりと高齢者同士のコミュニケーションを進めている。	住民自治協議会内での横並びの扱いで、難しい取り組みとなる“福祉”が弱まる傾向がある。支え合いの協議体(検討会)を活性化させる方策を強化して、活動を支援いただきたい。 同時に、社協の存在する地区でも、とかく取り組みがむずかしい“福祉”は住自協内で存在が弱められたり、埋没していく怖れが多分にあるので、(福祉関係補助制度等)独自の支援方法を検討されたい。

NO	地区名	Q1 1はい 2いいえ	Q1 社会福祉法人や民間企業と協力し、既存の住民福祉大会等を活用し、様々な年代や多様な住民が参加できる学びの場を設けましたか。	Q2 1はい 2いいえ	Q2 福祉サービス事業者が地域ニーズを把握する場として地域の福祉関係者と情報交換を行うような機会を設けましたか。	Q3 1はい 2いいえ	Q3 民生委員・児童委員や福祉推進員といった地域の担い手の役割を住民に周知していますか。	Q4 1はい 2いいえ	Q4 隣近所において、お互いに気にかけて関係を築くため、日常生活単位で行われているサロン活動等がありますか。	Q5 地区において、見守り体制の整備に努めていただいていると思いますが、具体的な取組内容や体制について教えてください。
15		2	福祉大会は開催しています。3年前に施設の先生を招いて脳トレ講座を開きましたが、お茶のみサロンやはつつ体操など、地区の活動紹介、交流を主眼で行っています。 また、民間企業といった場合、域内に競合業者が複数あるので、「あい見積もり」を取り業者選定する、或いは〇〇の理由で〇〇社に依頼とのお願い書発行となります。正直、面倒。	2	我々は長野市と協同する組織です。福祉サービス事業者の活動を支援することはむしろ、慎むべきだと思いますし、我々がその場を設けてあげる必要はないかと思えます。それぞれの企業が営業活動の一環として努力すべきことと思えます。 *域内に包括支援センター、グループホーム、ツクイなどの業者、複数の病院、障害福祉サービス等を手がけるりんどうなどありますが、福祉サービス事業者とはどの方たちを想定していますか？ *地域の福祉関係者とは、福祉ワーカ、福祉部会等の住自協関係者ほか、民生、区の役員、消防団等も入りますが誰を想定していますか？	2	区長(住自協も)は、必須事務として「区長民生委員・児童委員候補者の推薦」を行っていますが、別組織なので、依頼があれば周知しますが、当方からはしていません。各区では地区の福祉懇談会に民生も加わって頂いていますし、区の広報などで伝えているはずです。	1	(1)お茶のみサロンを開催しています。 (2)各区で「小さな一歩高齢者支援運動」(みんなて運ぶとなり近所の やさしい まごころ)を実施 ・災害時に弱者となりえる要援護者に対し「声かけ」を兼ね「重量物(紙類等の)回収」の支援を行っている。 (3)各区で「あいさつ運動」も行っている。	(1)各区単位で災害時要援護者の支援事業を行っている。 [骨子] ・区長は、市より受領した「避難行動要支援者名簿」に基づき、民生委員と相談をして災害時に支援が必要な人をピックアップし、「災害時要援護者リスト」を作成 ・要援護者は「私の避難計画」を作成し、保険証(コピー)等と一緒に「専用避難袋」に入れ、家の冷蔵庫、又は玄関(内側)にかける。 *一部の区は上記対象などを含む大規模防災訓練も実施 (2)地域福祉懇談会の開催 ・福祉に係わることを検討、実施するため、区長が民生委員、福祉推進員などを集め、会議を年2回以上開催を行っている。
16		1	R元年福祉「知っ得」セミナー「認知の母にキッスされ」の講演 福祉活動計画の「高齢者や障がい者について理解を深める」という目標に沿って「認知症や介護」についての講演会を実施。 直木賞作家ねじめ正一先生に認知症の側面を明るく介護体験を通して考えたこと、自身の老い支度等をお話していただいた。 講演会終了後民生委員・福祉推進員・住自協役員で「認知症について」を保健師による勉強会をした。	2	地域包括支援センターで、サービス事業者、関係者、地区住自協役員・民生委員・福祉推進員等の情報交換会、勉強会が何度かありましたが、地区では参集範囲が少なすぎてできませんでした。	1	民生児童委員・福祉推進員は福祉健康部会等の部会員になって住自協の活動のPRや参加呼びかけなどしているの、住民に周知していると思う。	1	お茶のみサロン…区ごとに毎年開催。主な担い手は福祉推進員。年3回ぐらい。1地区は毎月18日をサロンの日と決めて活動している。茶話会、各区独自の催事(もの作り・ビデオ・カラオケ・演奏会等) 体操教室…はつつ体操・脳トレ・出前講座等おこなう。5組の自主グループが活動。毎週1回と月2回のグループあり。 ※災害後は活動ストップ(場所がない、住民多数が地区外で避難生活)。	福祉推進員活動の充実ということで、隣近所を見守り支え合いが必要な方への声かけ等をし、日常生活の安否確認をし困りごとを発見し民生委員につなげる。
17		1	福祉大会は開催していませんが、住民自治協議会全体の事業として開催する「フェスタ」にて地区介護保険事業所ネットワークが介護相談、高齢者体験、介護用品の紹介等を実施しています。来場した多くの住民が参加しました。	1	生活支援体制整備事業の検討会に、地区介護事業所ネットワークから施設職員3名が参加しています。検討会をニーズの把握、情報交換の場として活用していただくとともに、事業に対する協力、助言をお願いしています。	1	現在は住民自治協議会広報誌内で事業の報告を中心に周知しています。今後は福祉関係の事業を中心とした広報の発行を検討しています。	1	・お茶のみサロン ・通いの場(カラオケグループ、スティックカーリングを中心とした活動のグループ) ・はつつ体操 ・区公民館で開催されているグループ活動(マレットゴルフ、健康マージャン、スマイルボーリング等)	各小学校単位に見守り隊を設置し当番をきめて、育成会と手分けして見守り活動をしています。高齢者の見守りについては、ひとり暮らしを中心に民生委員と連携し声かけを実施しています。役割表を作成して見回りをしている区もあります。
18		1	・春のウォーキング ・中央消防署、介護センター、包括支援センターの視察研修 ・介護用品事業者より福祉用具の紹介と使用体験 ・秋の運動講座 地区八景巡り(台風19号の影響で中止)	1	・福祉委員会 ・サロンサミット ・地域福祉懇談会	1	・福祉・健康部会福祉だより ・民児協の地区内在住の80歳以上の方への訪問事業の周知	1	・地区11地区中、サロン数 20グループ	・地区選任福祉委員による見守り体制の充実 ・お互い様の人間関係作りの話し合いをサロンや、地域福祉懇談会で話し合っている
19		1	・社会福祉大会(地域づくり講座、特殊詐欺被害防止講座) ・認知症サポート講座、エンディングノート書き方講座 ・ウォーキング講座、ストレッチ教室、介護予防講座 等 ・おいしいお茶のいれ方講座(伊藤園)	1	・中学生以上を対象にアンケートを実施し、その結果を踏まえ報告会を行った。 ・毎月、民児協定例会に出席していただいている。	1	・年に3回「住民自治協議会だより」を発行(資料添付)。 ・認知症サポート講座に住民の方と一緒に参加していただいた。 ・民生児童委員だよりの発行(民生委員改選時、資料添付)	1	・各地区のお茶のみサロン 血圧測定、健康指導、映画鑑賞、おしゃべり等 ・昔ながらの「向こう三軒両隣」の精神が残っている地区もあり、 ・独自事業(支え合いサービス)もあるが、隣近所で助け合っているよう[アンケート結果より]。	・今年度よりアンケートの結果をもとに地区福祉懇談会を数地区で計画、予定しているので、話題にしていきたい。 ・避難行動要支援者名簿登載者について、地区独自の取り組みとして、救急医療キットの設置指導を行っている。

NO	地区名	Q6 地区における地域福祉推進の取組として、特に大事だと考えている取組を5つ紹介してください(Q1～Q5までの取組と重複可)。  エピソード1	また、取組によって「こんなことが起こった」というような紹介したくなるようなエピソード等があれば併せて紹介してください。  エピソード2	エピソード3	エピソード4	エピソード5	その他(意見)
15		市開催の第24回 長野市住民自治連絡協議会理事会で「フレイル予防」のキックオフをとの紹介がありました。我々は、生活支援体制整備(地域包括ケアシステム)に従い、はつらつなどの運動に取り組んできました(第二次まちづくり計画の最大施策)。フレイルも重要で、現活動との整合性を取る必要を感じていますが、それ以降 市からは進め方等に関する説明がありません。☆次年度、若槻独自に第二次まちづくり計画との整合性を取ることを行う予定。	☆地区は雪かきが地区の課題の一つです。暖冬で今年は本格的な議論にはなりませんでしたが、これからも取り組むべき課題と揃えています。  ☆その他の福祉施策は、次年度の第二次まちづくり計画(3年目)の中で、検討をしていく予定です。 [検討対象事業(下記)]	①区長部 …避難行動要支援者事業、小さな一歩高齢者支援運動、地域福祉懇談会 ②福祉部会…サロン事業、介護予防・日常生活支援総合事業 ③健康部会…各区、自治会単位の健康講座	特になし	特になし	市の補助金は使い勝手が悪い。 ・使い方が限定されたり、飲食費はダメです。 例1)はつらつ運動で熱中症対策で「お茶、塩飴」を買っていますが なんとか補助をしたいが…… 例2)我々は男性の料理教室の参加を増やす手だてとして、夕方から男性が料理を作り、飲み会をとの試策を検討していますが…… 例3)雪かき補助として、除雪機の購入補助を検討しましたが、高額で何かの補助金がないとムリなため未実施 もっとザックリした形で補助金が頂けないかと思えます。
16		Q4 憩いの場・ふれあいの場づくり、自主的な介護予防の場づくり 場をつくることにより、人と人との絆が深まり日常的なつながりができる。 災害時以降、1地区が再開したら年代層が若くなり活気があった。復興に向けて良いふれあいであり情報交換の場だと思う。地区外へ出た人も参加している。	○みのりのつどい 敬老の日にあわせ高齢者の健康と長寿を祝う。地区をあげて激励する場、人との絆を深める場として高齢者の活力を図る。 唯一、男性参加のある事業であり、また、参加者も多い。	救急医療情報キット 避難行動要支援者等を対象に緊急時連絡カードを配布し、事前に必要な情報を記載し緊急時の初期対応をスムーズにする。 配布2日後に利用者がでて大変喜ばれた。 災害で各家庭の冷蔵庫が水没し全て廃棄となってしまい今後どうするか検討していく	○愛の一籠運動 30年以上続いている事業 地区の特産物であるりんごを一籠ずつ持ち寄り、福祉活動を充実させるための資金づくりで地区住民の支え合い助け合いの心を高める。 使途…福祉自動車、見舞金、祝い金、乳幼児の育成支援	○男性の地域デビュー事業(各事業への男性参加がない) 男性の仲間づくり・生きがいづくりを目的の講座等を開設し、情報交換の場、ふれあいの場として次年度以降、新しい取組として検討していきたい。	
17		福祉関係団体合同研修会  地区の福祉に関わる団体(住自協役員、区長、民協、老連、遺族会、手をつなぐ育成会、福祉推進員、包括、介護保険事業所ネットワーク等)が同じ研修会に参加することで各区での取り組みのきっかけづくりとして開催しています。近年では生活支援体制整備事業の意見交換の場として活用し、区でのささえ合いや介護予防の推進につながる研修を行っています。	生活支援体制整備事業の推進 ① 検討会の開催 年に3～4回、住自協会長・健康福祉部会正副部会長・教育文化部会長・民児協会長・老連会長・支所長補佐・かがやきひろば所長・包括支援センター主任介護支援専門員、社会福祉士・介護保険事業所ネットワーク等で構成されており、普段の業務で関わることが少ない団体の皆さんとの情報交換の場になっています。今後は各団体が把握している生活支援の情報の集約や住民への広報などを検討する予定です。 ② 介護予防の推進 はつらつ体操を推進するにあたって、福祉関係団体合同研修会にて包括ケア推進課より「はつらつ倶楽部」についての講話をお願いしました。研修会終了後も包括ケア推進課に協力していただきながら、はつらつ体操のグループも利用できる「地区ささえあい活動報償金」(1区につき1グループ12000円)を制定、活用することでスタートしやすい環境づくりをしています。今年度は3カ所でグループが立ち上がり、地区では6カ所が実施、今後3カ所が講座を予定しています。	健康福祉部会の開催 地区では各区より2名選出される健康福祉部会員が福祉推進員の役割を担っているため年4回部会を開催し、事業の説明や研修、行事への協力をお願いしています。 部会員の皆さんにはアモーレフェスタでの軽食調理、福祉バザーでの値付け販売等、区だけでなく住民自治協議会の事業でも活躍していただいています。 また部会員向けの研修では福祉推進員の役割をはじめAEDについての講習や情報交換会など日ごろの活動に役立つような内容を企画するようにしています。	お茶のみサロン  各区において地域住民の交流活動の場として「お茶のみサロン」を開催しています。出前講座を活用したり、音楽等のボランティアを依頼したり、保育園と交流するなど内容も回数も区によって様々ですが役員の方々が工夫して開催しています 内容については地区ボランティアセンターで紹介することもありますが日ごろの課題等については健康福祉部会の研修会で情報交換をしていただいています。	うたごえ喫茶  年に2回、「うたごえ喫茶」を開催しています。回覧で周知、参加費100円です。喫茶については健康福祉部会員にお茶やお菓子の準備をお願いしています。歌集を見ながらありこさんと一緒に歌ったり、手遊びをしたり、楽しいトークがあったりとあつという間の2時間です。 毎回約60名の参加があり、10年以上続いている人気のある事業です。	生活支援整備事業をはじめ地域福祉を推進していくにあたって活動の必要性を多くの住民に知ってもらうこと、区長にも福祉役員の活動や役割を理解し協力していただけるような働きかけが必要だと感じています。 今後の課題として、区長をはじめ地域住民に活動を理解していただける説明や広報等、周知の方法を検討していきたいと思えます。
18		・福祉委員を中心に隣近所とのつながりの大切さの研修の場	・民生委員児童委員の活動や役割をきちんと地区の方に理解してもらう事(頼めばなんでもやってもらえる的なものでなく、親族の関わり方の理解)	・お互いの見守りの精神、困ったときはお互い様の気持ちで生活していく基盤整備	・もっと多くの地区住民が、いろいろある行政の福祉体制を知り、活用すること(社協の福祉自動車、住自協のかつら号、茂茂里包括支援センター、まいさぼ長野等)	・サロンや保健補導員会の活動、交流センターの企画等に積極的に参加してもらえるような内容の検討と連携	・過疎化、人口減、高齢化による役職の担い手不足のなかで、自分事として地域の課題を解決していこうとする話し合いや、取り組みの強化
19		平成26年より地域住民相互の助け合い活動として、有償ボランティア組織を発足。住民が「利用会員」「協力会員」となり、草刈、支障木の伐採、調理(イベントや災害時のみ)、お助け(ゴミ出しや、電球の取替えなど30分に満たない軽作業)を行っている。	「ぬくもり広場」として、春には桜の下で食事や舞台発表を楽しむ「ふれあい祭り」、秋には地区の小学校の「音楽会」を鑑賞し子どもたちとふれあい、冬には様々な趣味のサークル活動の発表や手作り品を展示する「文化芸能祭」が毎年行われ、子どもからお年寄りまで参加できる催しがある。	防災マップの作成。 各地区でワークショップ後にドローンを使い、防災マップ作り。現在30地区中26地区が終了。災害発生時の避難経路や行動の確認、要支援者の避難方法の確認に役立ててもらった。	農村民泊の受け入れ。 都会からの中高生を一般家庭で受け入れ、交流を図る事により地域活性化はもちろん、受け入れる側の生きがいにもなっている。	毎年秋に区民運動会を開催。お年寄りの方にもご来場いただき、楽しんでもらえるようにしている。	◎どこの中山間地でも問題になる「足の確保」。高齢化が進み、通院、買物はもちろんだが、イベントや講座等を計画しても芋井は広いので、足がないと中々参加する事も難しくなっている。  ◎かがやき広場や医療施設がない。

NO	地区名	Q1 1はい 2いいえ	Q1 社会福祉法人や民間企業と協力し、既存の住民福祉大会等を活用し、様々な年代や多様な住民が参加できる学びの場を設けましたか。	Q2 1はい 2いいえ	Q2 福祉サービス事業者が地域ニーズを把握する場として地域の福祉関係者と情報交換を行うような機会を設けましたか。	Q3 1はい 2いいえ	Q3 民生委員・児童委員や福祉推進員といった地域の担手の役割を住民に周知していますか。	Q4 1はい 2いいえ	Q4 隣近所において、お互いに気にかけて関係を築くため、日常生活単位で行われているサロン活動等がありますか。	Q5 地区において、見守り体制の整備に努めていただいていると思いますが、具体的な取組内容や体制について教えてください。
20		1	<p>・H28 講師:林家 染二氏 講演:～笑う門には福来たる～ 思いっきり笑うと元気になれます (11/13)・H29 講師:小久保 晴代氏 講演:加齢による将来の不安 介護予防・認知症予防として、何をすべきか～快適な日々を送るために～(10/22)・H30 講師:向笠 千恵子氏 講演:“食”から始めるすこやかライフ(フードジャーナリスト/食文化研究家)</p> <p>H31は福祉大会を実施しませんでした。2025年問題を課題に、各地域での居場所づくり住みやすい地域にするために市からの依頼ではつつつ体操を推進して介護予防をしていこうとなりました。2019年度は2025年問題包括ケア推進のため「高齢者支援」を最大の課題としたため、毎年行っていた福祉大会を中止しました。</p> <p>はつつつ体操を地域で指導できる人を育てるため養成講座を行いました。その結果地域に自主グループが22グループ立ち上がってきた。それを機に「しののいはつつつ体操サミット情報交換会」を実施し、グループ発表、フロアトークをして地域間での情報交換会ができた。大好評だった。今年度は、社会福祉部会を中心に活動ができるように(2回目)はつつつ体操サミット情報交換会をやる予定です。</p> <p>福祉大会に関しては、マンネリ化している事や多額の予算も生じるため講演をお願いする方としても時間をかけて慎重に検討すべき問題だと思ひ、見送りました。福祉大会の意味がないような感じがした。</p>	1	<p>今まで高齢者の支援を最優先に考えていたために取り組んでいなかったが、補助金を交付している団体にいます。「更生保護女性会」の方にも、社会福祉部会の団体でどんな活動しているのか、また地域の福祉事業所なども同様に情報交換をできたらと思っています。今年の課題の追加として考えていきたい。</p>	1	<p>・(包括ケア2025年問題含む)はつつつ体操の自主グループを立ち上げるための説明会を開き、地区での活動を進めている。</p> <p>年度当初に民生定例会へ出向き、ワーカーが地域とどのようにかかわっているのか、地区住民自治協議会との関係や立ち位置を説明。</p> <p>民生さんにご支援、協力をいただくことをお願いした。合計4地区</p>	1	<p>・ほぼ全地区にお茶のみまたはふれあい会食会を実施しているし、まだやっていない地区へお茶のみサロンを推進している。</p> <p>お茶のみサロンでは、役員も順番で例年にならってやっているためイベント化してこまる。年1回しかやらない地区が40人参加となり、お茶のみというのか不思議になる。逆に回数を増やしてほしい。盛大にやるということは考えないでほしい。居場所づくりとしてやっているというのがわかるようお願いしたい。</p> <p>ふれあい会食は、独居の高齢者はいるはずだが呼んでもなかなか来ないボランティアや役員が多くなっている地域が多数ある。</p> <p>地域全体で会食をやっているところが数地区あり、高齢化が進むと分館ではなく地域公民館での会食などに変えていかないと更に来なくなる。会食なので回数を増やすのは大変だと思います。いずれお茶のみサロンに移行していきたいとは思っている。</p>	特にやっていない。
21		1	<p>毎年、短期大学の学生と、まち歩きをして福祉について学んでいます。社会福祉施設などを見学します。</p>	1	<p>民生児童委員、地域包括センター、福祉施設、社会福祉協議会などで構成する地域ケア推進会議を開催しています。</p>	1	<p>・福祉推進員研修での民生児童委員との関わりの説明</p> <p>・両者の活動、活躍を広報紙に掲載</p>	1	<p>定期的にはつつつ体操およびお茶の間サロンを開催</p> <p>平成30年度 43カ所 283回 5,073名</p> <p>令和元年度 45カ所 272回 4,792名</p>	<p>地域別懇談会を行政区単位で開催し、見守りを含むささえあいの体制整備について意見交換をしました。</p>
22		1	<p>福祉まつり(住民福祉大会)のステージ発表で地区の福祉事業所や、地区内の小・中学校の方に参加して頂き、住民の方々に福祉について関心を持ってもらうきっかけづくりを行った。</p>	1	<p>社会福祉部会の理事と事務局が数名単位のグループで施設側の意向を汲みながら、訪問し(今年度は8事業所)、施設の概要説明を聞くなど意見交換を実施。</p>	1	<p>12地区内をまわり、区長・民生/民生児童・福祉推進員の方々と福祉に関する、意見交換を実施。</p>	1	<p>38自治区内の内32団体開催。</p> <p>運営が負担とならないよう支援。</p>	<p>地域たすけあい事業の推進</p> <p>・家事援助の協力会員(登録制)の募集と派遣</p> <p>・周知の為の広報</p>
23		1	<p>・住民福祉大会</p> <p>・介護者のつどい「おむつのあて方講座」講師 こすもけあくらぶ、ユニ・チャーム、パナソニックエイジフリーショップ</p> <p>・男性の介護者のつどい「常泉寺カフェ」包括、その他事業所スタッフの皆さんと開催</p> <p>・認知症サポーター研修</p> <p>・大学との連携事業 各種講演会、測定会ボランティアの受け入れ整備など</p>	1	<p>・ネットワーク会議 (包括主催)</p> <p>・ケア会議 (包括主催)</p> <p>・オレンジカフェ</p> <p>毎回、数か所の事業所の方にご参加いただきカフェ参加者との相談、交流をしていただいている。また、定期的に専門家によるミニ講座を開催し、地域ニーズを出していただく場となっている。</p>	1	<p>・広報紙に定期的に掲載。</p> <p>・折にふれ口頭で紹介。</p>	1	<p>・各地区で福祉推進員により行われているサロンをはじめ、推進員以外が開催しているサロンが数カ所ある。</p> <p>・近所の方が気軽に寄れる場「まちの縁側」も民家等で始まっている。</p> <p>・はつつつ体操等</p>	<p>・お手伝い隊、見守り隊の発足、活動。</p> <p>・支えあいマップの検討、作成。</p>
24		2	<p>既存の事業が多くまだ取り組めていない</p>	1	<p>地域包括、在介の施設、民児協と地区の課題について話し合った(ゴミの問題が多かった)</p>	1	<p>民生委員は「民児協だより」を発行して地域に周知している</p>	1	<p>・お茶のみサロン:60グループ 年間158回開催</p> <p>・健康体操:約34グループ 毎週・月2回開催している</p>	<p>・4地区において登下校の見守りを実施している(各小学校区)</p> <p>・授業参観の後の保護者会の時に、図書館等で子どもたちの見守り(支える会・祖父母の会が担当)をしている地区がある。</p>

NO	地区名	Q6 地区における地域福祉推進の取組として、特に大事だと考えている取組を5つ紹介してください(Q1～Q5までの取組と重複可)。 エピソード1	また、取組によって「こんなことが起こった」というような紹介したくなるようなエピソード等があれば併せて紹介してください。 エピソード2	エピソード3	エピソード4	エピソード5	その他(意見)
20		◎はつらつ体操 介護予防が目的 数年後も歩けるかどうか初めのころ押し車で体操に来ていた人が、体操をしていたら押し車を使わずに歩いてこれるようになった。 神経痛だった人が、いたなくなりました。	◎お茶のみサロン ◎ふれあい会食 自主グループの体操が立ち上がったところは、お茶のみサロンの回数が増えた。	◎高齢者・健康増進(生き甲斐・やりがいづくり)について 民生、健康・福祉推進員さんにはつらつ養成講座に参加してもらい地元で体操を担う役割をお願いしていた。自主グループが立ち上がった。 篠ノ井交流センターではつらつ体操を月1回やっていて先頭に立ってやってもらっている。	◎ささえあい 洪水災害があり南長野運動公園に避難場所になり、養成講座の方にボランティアを頼んで被災者を元気づけた。避難している方からは喜ばれた。	特になし	
21		福祉推進員が楽しんで活動すること 自分の気づかなかった才能を発見できたらとても良い	参加者、全員が楽しめるもの(気分を悪くしないもの)	自分の役割を理解する 縁の下の力持ち、福祉活動への理解、社会福祉協議会、民生児童委員との連携、見守り活動など	お茶の間サロンの場で、地域の困りごとについて気軽に話し合ったり、地域の高齢者の方に生き様や地域の歴史についてお話を伺ったり、とても素晴らしいアイデアだと思いました。	福祉推進員がオリジナルゲームを考案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶の間サロン、はつらつ体操後の小ネタや脳トレのアイデアがなく困っていると福祉推進員から相談を受けたので、「福祉推進員のお茶の間サロン」を開催し、地域包括ケア推進課の講師と情報交換を行い、大変好評でした。福祉推進員からはもっとアイデアが欲しいとのことで、いい案があれば教えていただきたいです。</li> <li>・現在の地域福祉ワーカーの人数、勤務時間では到底良い取り組みは出来ません。市の正規職員を一人配置して福祉事業に関わっていただければと思います。</li> </ul>
22		・おしゃべりサロン/・ふれあい会食/・オレンジカフェ/・介護者の集いの開催。	・福祉自動車運行事業 福祉自動車の運営	・介護予防の取組支援	・子育て世代支援	・各種事業の広報活動	
23		・防災 自治会単位の防災マップ、支えあいマップの整備	・近所のコミュニケーションをとる場 お茶のみサロン、まちの縁側、各地区で行われている多世代交流事業(しめ縄作り、やしょうま作り、運動会など)	・近所の支えあいと話し合いの場 地域福祉懇談会、自治会単位の支えあい組織	・あいさつ運動	・他機関とのネットワーク ネットワーク会議、上記行事での事業所との協力、大学との交流。	
24		* 顔見知りになった見守り活動のボランティアと一緒に学校に行けるようになった児童がいた(登校途中で校長先生に引き継ぐ)	認知症等当事者と支える側が、話し合え、相談できる場(オレンジカフェ)	高齢者、免許返納をしようとしている人たちから、公民館や支所等に出かける際に地区内を循環する交通手段がないか、という意見が出ている。	健康体操:歩いて行ける場所、顔見知りの人と話すことや体操をすることで、運動機能の低下を防ぐ(実際に機能が改善した人がいる) 健康づくりウォーキング 地区内にウォーキングのグループがいくつかあるがこれらを横断した研修を計画中(正しい歩き方 靴やボールの正しい使い方など自己流ではなく正しい方法で)これまで「村めぐりウォーキング」という名称で「七二会史跡ガイドブック」を参照してのウォーキングを行ってきたがほぼ一巡したので、新たな取り組みとしたい。 年5回開催 平均参加者20名程度 講師を招いてのノルディックウォークも1回	たすけあい事業 有償による助け合い事業 草刈り・耕運・枝下ろし等の軽微な伐採・軽微な修繕・急がない除雪 家庭に入る作業は社協の地域助け合い事業に委ねる 利用会員43名 協力会員26名 年間稼働64.5時間 1時間千円	

NO	地区名	Q1 1はい 2いいえ	Q1 社会福祉法人や民間企業と協力し、既存の住民福祉大会等を活用し、様々な年代や多様な住民が参加できる学びの場を設けましたか。	Q2 1はい 2いいえ	Q2 福祉サービス事業者が地域ニーズを把握する場として地域の福祉関係者と情報交換を行うような機会を設けましたか。	Q3 1はい 2いいえ	Q3 民生委員・児童委員や福祉推進員といった地域の担い手の役割を住民に周知していますか。	Q4 1はい 2いいえ	Q4 隣近所において、お互いに気にかけて関係を築くため、日常生活単位で行われているサロン活動等がありますか。	Q5 地区において、見守り体制の整備に努めていただいていると思いますが、具体的な取組内容や体制について教えてください。
25		1	福祉大会での講演会 社会を明るくする運動住民大会での講演会 (社明趣旨に沿う内容にプラスする形で毎年開催) 単発での福祉研修や施設見学の実施 (チラシによる呼びかけ)	1	ネットワーク会議 地域の福祉にかかわる役員・地域包括支援センター・社協 コーディネーター・保健師・ワーカー・住自協・支所ケアマネさんと語る会(顔に見える関係づくり)民生委員児童委員 福祉推進員 ワーカー 支所社協コーディネーター 地区に利用者を持つ事業所及び事業所のコーディネーター 訪問看護地区内事業所との情報交換 ・地域包括支援センター 福祉関係諸会議・各地区のサロン・かがやき健康サロンに講師として参加頂くほか福祉関係役員による包括センター視察研修実施 ・グループホームかえで 隔月開催の運営推進会議に参加(ワーカー) ・特別養護老人ホーム ワーカーが適宜訪問 ・特別養護老人ホーム(近隣の事業所) ワーカー訪問 ・地域包括支援センター(近隣の事業所) 〃 ・居宅介護事業所(近隣の事業所) ワーカー訪問	1	健康福祉だより(年1回発行) 住自協だより(年2回発行) 福祉かわらばん(毎月発行) お茶のみサロンには福祉推進員が必ず参加又は福祉推進員が主催	1	各区に必ず1サロン以上あり 小区ごとに開催している所も多い 令和1年度 サロン数17 総開催数94 延べ参加人数1,235名 集まるための足がないため、役員等による送迎が必須の所が多いのが課題 なるも、参加される皆さんの楽しみであるとともに、サロン代表者やサポートする役員にとっても、「やりがい感」や「達成感」に繋がっている。 役員を終わるとき、「大変だったけど楽しかった」との声を聞くことが多い。	平常時の見守りがあってこそ非常時の支援体制があるということで災害時の避難行動要支援者への対応も含め、区長を中心に見守り体制の構築を図っているが、主体となるのが自主防災会(区長が主)なので 地域福祉活動計画通りには中々進展していない。 日常の見守りは、友愛活動事業を軸とし民生委員を中心に健康福祉推進員やボランティアが訪問活動やふれあい会食を行っている。 又 まだまだ隣近所の「ゆるやかな見守り」が生きていて、カーテンがあかない、電気がつかない、新聞が取り込まれていないなど、ご近所が注意してみている。新聞配達、郵便配達の方からの情報も寄せられている。非常時は 組長 小区長 区長 という安否確認ルートと民生委員による独り暮らし高齢者への安否確認ルートがある。
26		1	福祉大会を開催し、民生委員やボランティア活動への協力者を紹介する等、多くの住民に対し重要性をアピールした。	1	3事業所の職員と支所長・補佐・土木担当にも出席してもらい、積雪時の道路状況を確認し合う場(会議)を設けた。 事業所の方に状況を把握してもらうことが出来て、より良い運行・運営の道筋が出来た。	1	福祉大会・サロン等で周知した。 今後はより一層地域の担い手としての役割について重要性をアピールしていきたい。	1	小地区単位での交流会の増加、はつらつ体操の開催、ふれあい会食会の開催など、徐々にではあるが良い関係が築かれつつある。	推進委員さんには、チラシ配布時の声掛けをしてもらっている。 また、区長・組長・民生委員さんには常に見守りをしてもらっている。
27		1	町文化祭にあわせて、「ふれあいまつり」を開催。社会福祉法人の医師と保看護師さんに、健康相談を。国道薬局の薬剤師さんにくすりの相談をしていただきました。キッズコーナーでアートパルーンの実践をしたり、ふるまいのコーナーでは食生活改善推進協議会のみなさんによる、せんべ焼きや飲み物の提供をし、住民誰もが参加できる場を設けました。	1	社会福祉法人と住民自治協議会で「ひだまりほっとサロン」を開催するために定期的に情報交換をしています。	1	民生委員の広報誌を定期的に全戸配布しています。	1	【1「はい」は取組内容、2「いいえ」は理由・課題等を記入】 組単位でサロン活動を実施。59のサロンが立ち上がっており令和元年度は年間183回開催しました。組単位で開催することにより隣近所の見守りにつながっています。	長野市のひとり暮らし友愛事業を実施しており、福祉社会役員と民生委員が協力し、定期的に自宅訪問をおこなっています。 老人クラブのみなさんが、小学校の下校時間にあわせて通学路の見守り活動をしています。
28		1	毎年11月頃福祉大会を開催し福祉施設の利用者さんの作品展示と講演会をしている。今年度は、社会福祉協議会の協力で「夢をあきらめない」の講演をしていただきました。小学生もこの講演を見てかなり衝撃を受けたようですが、世界にはいろんな経験をしている人がいる事を学べたと思います。	1	「そばの郷ネット」(介護予防・生活支援検討会)にて情報交換 今年度から試験的な通いの場(すみれ会・もくもくの会)で、支援が必要な人の情報交換をしている	1	「こみゆにていー」や「そばの郷通信」等で紹介している	1	今年度、各区のおしゃべりサロンに出向き、H30年に実施した「支え合い地域づくり」アンケートの区別結果報告をした際に、お互い様の気持ちでの見守りについて話してきました。 区によっては、自主的に趣味の会など、定期的に集まって情報交換をしている所があります。 今年度、地区内で52回開催され、のべ575人が参加しました。	特に体制整備はしていませんが、ご近所さんを知らないという地域はほとんどなく、昔からご近所さんを気にかけて生活をしています。
29		1	老人福祉センターを福祉のつどいの会場にさせて頂いたことで、デイサービスやショートステイの方たちにも参加していただきましたが、去年は特に「学び」が少なくなっていました。来年度は気を付けようと思っています。	1	「福祉熱人ワーク会議」がその場ですが、むしろ、福祉サービス事業者が個別のニーズを拾って教えてくれるので、それを地域として対応するか(できるか)検討している感じです。	1	しているつもりですが、浸透するには時間がかかりそうです。また、役割についての個人認識の差も感じています。	1	「日常生活単位」という意味が良く解りませんが、ご近所で活動して下さっている地域はありますが、逆に、この山の中でもご近所のお茶のみが少なくなっていると感じているのも事実です。地区によって開催頻度にはらつきがあるのが気になるのですが、担当される方は、皆さん工夫して取り組んで下さっています。	見守り活動については、新聞配達、郵便配達、宅配便、JA訪問日、配食サービス、民生委員活動、在介さんによる訪問等で、行われているね、という確認はしましたが、それぞれの情報共有はできていません。 また、昨年度、見守り啓発チラシを作りかけましたが、「見守りと、見張りの境界線が難しい」「生死にかかわる見守りと、日常的な見守りのポイントが違う」「それぞれの見守りを啓発するのか、見守ってどこに相談するかまで提示するのか」など意見がまとまらず、完成に至らなかった経緯があります。 まだ模索中ですが、本当に伝えたいことが見つかったら、啓発チラシを作って活動を広めたいと思っています。 また、数々のサロン活動が、見守りになっていると思います。

NO	地区名	Q6 地区における地域福祉推進の取組として、特に大事だと考えている取組を5つ紹介してください(Q1～Q5までの取組と重複可)。  エピソード1	また、取組によって「こんなことが起こった」というような紹介したくなるようなエピソード等があれば併せて紹介してください。  エピソード2	エピソード3	エピソード4	エピソード5	その他(意見)
25	お茶のみサロン Q4 のとおり	かがやき健康サロン 地区内唯一のバリアフリー施設である「かがやきひろば」を会場に開催している介護予防教室+お茶のみサロンである。(階段なし洋式トイレ完備の施設は他にない)送迎はできないので、地区内を走るバスの時刻表に合わせて開催(バス停設置、非開館日の鍵貸与等の措置を重ねての開催)通いの場事業補助金により運営。居宅要支援被保険者は、本来は地域包括支援センターからの紹介により参加頂くものであるが、自主的に参加申し込みがあり参加者の21%を占めるに至っている。区ごとのお茶のみサロンでは会えない区を超えた交流が生まれ、互いに誘い合っの参加となっている。地区内で活動しているグループ、或いは近隣地区のグループに参加している方に紹介いただいたグループの方々には練習の成果を発表頂く「芸術の秋」シリーズでは、発表頂くボランティアの皆さんと、サロン参加者が互いに「元気をもらった」という声しきり…どちらも同年齢なので…発表するボランティアの側の皆さんの「生きがい作り」にも寄与する場となっている。バスルートに合わせて毎月3回開催 平均参加者20名	かがやき健康サロン 地区内唯一のバリアフリー施設である「かがやきひろば」を会場に開催している介護予防教室+お茶のみサロンである。(階段なし洋式トイレ完備の施設は他にない)送迎はできないので、地区内を走るバスの時刻表に合わせて開催(バス停設置、非開館日の鍵貸与等の措置を重ねての開催)通いの場事業補助金により運営。居宅要支援被保険者は、本来は地域包括支援センターからの紹介により参加頂くものであるが、自主的に参加申し込みがあり参加者の21%を占めるに至っている。区ごとのお茶のみサロンでは会えない区を超えた交流が生まれ、互いに誘い合っの参加となっている。地区内で活動しているグループ、或いは近隣地区のグループに参加している方に紹介いただいたグループの方々には練習の成果を発表頂く「芸術の秋」シリーズでは、発表頂くボランティアの皆さんと、サロン参加者が互いに「元気をもらった」という声しきり…どちらも同年齢なので…発表するボランティアの側の皆さんの「生きがい作り」にも寄与する場となっている。バスルートに合わせて毎月3回開催 平均参加者20名	わくわく健康塾 介護予防クラブまでの取組はできていないが、月1回2つの会場で開催している。 長野市のはつらつ体操・地区作成のフレッシュ体操を自主運営で行い、無料の講師をお願いして補完する運動や脳トレを実施。2会場平均参加者15名。	健康講座 保健師を講師に、特定検診の結果の見方や注意点を聞き、七二会の特徴である糖尿病予備軍の多さに着目し、「糖尿病とは」「糖尿病を防ぐ運動」「糖尿病を防ぐ食事・調理実習含む」を年4回に分けて開催。	健康づくりウオーキング 地区内にウオーキングのグループがいくつかあるがこれらを横断した研修を計画中(正しい歩き方 靴やボールの正しい使い方など自己流ではなく正しい方法で)これまで「村めぐりウオーキング」という名称で「七二会史跡ガイドブック」を参照してのウオーキングを行ってきたがほぼ一巡したので、新たな取り組みとしたい。年5回開催 平均参加者20名程度 講師を招いてのノルディックウォークも1回	住民自治協議会の役員は、地区内の最大ボランティアであるが、高齢化の進む中、役員のなり手がなくなってきている。一人で何役もこなさなければならぬのが実情。かといって役員の数を減らせば一人に掛かる負担が増すことになる。役員でもないのに出しゃばっても…という風土もあり役員に頼らざるを得ないが、廻していくのが難しくなっている。
26	自主的な介護予防の活動グループの立ち上げに関わる。 高齢化が進む中、いつまでもこの地で元気に暮らしていけるために生きいき通いの場を立ち上げ、結果1地区が自主グループとして活動を開始している。	お茶のみサロンの運営に関わる。 徒歩でも参加しやすい小地区開催を増やしたいとの思いから、推進委員の努力で徐々にではあるが小地区開催が増えている。	はつらつ体操講座の運営に関わる。「運動」と「脳トレ」を中心に季節の行事も含め週1回開催を目標に5地区が活動を開始している。	健康食講習会への参加を通し、地域の皆さんの健康を考える機会がある。講習会は年1回だが、毎年半数近くの推進委員が参加してくれている。	ふれあい会食への協力体制ができつつある。 開催地区は現在2地区だが、それぞれの地区で推進委員の経験者も含め、推進委員には食事作りや送迎に協力してもらっている。	当地区では、推進委員を降りてもボランティア協力員として支援をいただける方には支援していただいている。声をかけると大勢の皆さん快く引き受けて下さり、大変ありがたく思っている。	
27	「ひだまりほっとサロン」 自立できていて、日頃自宅にひきこもりがちな人を対象に週に1回ひだまりほっとサロンを開催しています。	「オレンジカフェ」 認知症の方とご家族を対象に月に一回開催しています。 地域包括の職員も参加してくれているので、日頃の介護の相談ができたり、悩みを打ち明けることができる場となっています。	特になし	特になし	特になし		
28	ご近所さんの見守りが大切。昔から築かれた関係を継続していく事で自然と見守りができています。 ・一人暮らしの高齢者の家の電気が一晩中点灯している事に近所の人が気づき、倒れているのを発見した。既に亡くなっていたが、何日も放置されず早い段階で発見された。 ・最近様子がおかしいと、ご近所さんからの連絡で、その人が認知症とわかりました。車の運転もするので、心配でしたが家族の説得で運転を止めてもらえ、大きな事故を起こす前に防ぐ事ができました。その後ご近所さんとの関係は良好です。	福祉施設との連携がとれるようになった。今年度から試験的に始めた通いの場で、デイサービスはまだ必要ないと思われたひとり暮らしの高齢者を、介護予防の為に通いの場に誘った所、想像以上に自立行動が出来なくなっていた事が分かった。その後デイサービスに通えるよう申請を出した。 通いの場に誘い出すことで、本人が思っていた以上に支援が必要だと分かった事例です。	今年度、おしゃべりサロンでH30年に実施した「支え合い地域づくり」アンケートの結果報告と解説をした。これから来る超高齢化社会を乗り切るために、このサロンの開催回数を増やし、見守りや介護予防に努めようとする区が増えた。	通いの場からサポーターが生まれた。介護予防の為に始めた通いの場でしたが、参加者の中から「人に役に立つ事をしたい」という意見が出て、「すみれ会」では雑巾づくりをして保育園に寄付をしました。「もくもくの会」では、介護施設で大量に使用する新聞紙の使い捨てのゴミ袋を作り、寄付しました。	子育て応援事業では、すこやか学級を月2回開催しています。自然豊かな戸隠の環境を生かして、フクロウの巣箱を見たり、池の周りではモリアオガエルの卵を発見したり、都会からお嫁にきたママさんも勉強になるようです。夏には近隣の農家さんをお願いしてブルーベリー狩りをしたり、秋には落ち葉で冠を作ったりしています。		
29	平均寿命は女性の方が長い昨今ですが、地区では男性のひとり暮らしの方が急増しています。そこで、一人暮らしの男性の出かける場として、男性の料理教室が発展して、いろいろできる場になるように考えています。個性的な参加者に要望を聞きながら運営しているので、二転三転することも多々ありますが…困った時に助けてくれるのも、この会のお父さんたちで、「学校の鎌が切れない！」と相談したら、鎌研ぎを快く引き受けてくれました。「せっかく集まったんだからお昼を食べたい」というので、小学生に交じって給食を食べて帰りました。子どもたちと食事が出て、普段ひとり暮らしのおやじたちは、本当に嬉しそうでした。	【サロン】 サロンは、日頃のちょっとした困りごとを聞くサロンとして始めました。が、そのためにわざわざ月に1回のサロンに出かけてくる方は、ほんの数人しかいなかったの、年金支給日に合わせて、金融機関窓口に来た方とお茶を飲みながらお話をする機会としたところ、普段は、特に用がないと来てすぐ帰る方が足を止めて困らしていることで、久しぶりの再会があったり、一人暮らしの方がワイドショーなどの情報について近所の人に相談するシーンがあったりと、来ている方同士の交流が活発になってきました。もう1年ぐらい続けたら、定着しそうな予感がします。	【冬の健康教室+ご近所福祉サロン】 保健センターと共催で、閉じこもりがちな冬場に全地区(20地区)を回って冬の健康教室を行っています。2時間程度で、体育指導士さんに簡単な運動を習う時間と、ご近所福祉サロンとして、介護予防や介護保険のお話をしたり、今回はシールによるアンケートを実施して、面白い物や、市営バスについて皆さんの生の声を拾いました。その間、別室で保健師さんによる個別の健康相談が実施されていて、毎年開催しているので、昨年度と比較しながら保健師さんが丁寧に相談に答えていらっしやいます。それを楽しみに来ている方も多いです。	【生き行き健康セミナー】 整形外科や整骨院がない鬼無里で、自分の元気を自分で守ってもらおうとセルフケアの観点から、ヨガの体操や呼吸法を習う機会を作っています。歳を重ねていくと痛みが出やすい、腰・肩・膝の痛みが緩和を目指し、指導してくれるヨガインストラクターは、長年地区に携わっている保健師さんなので、皆さんの変化や様子もよくわかってきています。治療とは違い、継続して体操や呼吸法をやるのが一番大切なので、年に24回のセミナーですが、参加者のご要望も強いので、継続していき、皆さん変化も期待したいと思っています。	【カフェ】【手をつなごう会】ボランティア養成講座 第2次地域福祉活動計画では、ボランティア養成講座という名前になりましたが、具体的な活動名にしていった方がわかりやすいのではないかと考えて、次の計画では、この二つを入れようと思います。簡単に言うと、カフェは子どもたち(小中学生)のためのボランティアさんの定例会の名前で、手をつなごう会は一人暮らしの高齢者のために、草刈りをする活動のことを指しています。実際に草刈り活動をしてみて、思うことは、草刈りの仕上がりよりも、「助けてほしい」と声を上げた時に誰かが応えてくれるという安心感の方が大きいのではないかと考えています。	当地区のような小さい地域でさえ、20地区で地域福祉推進に温度差や格差が生まれています。逆に、小規模ゆえの強みを活かした助け合いが出来ているというも事実です。地域福祉を考えるときに、ニーズ調査をしますが、お話を聞いていると①今困っている方と、②今は大丈夫だけど、数年後が不安だ、と思っている方が混在しています。その辺をよく考慮した地域づくりが必要なのだと感じています。①今困っている方を助けつつ、②少し先の未来を見据えた課題に対応できたらと思います。それには、聞く力(聞き方)も必要になってくるような気がしています。	

NO	地区名	Q1 1はい 2いいえ	Q1 社会福祉法人や民間企業と協力し、既存の住民福祉大会等を活用し、様々な年代や多様な住民が参加できる学びの場を設けましたか。	Q2 1はい 2いいえ	Q2 福祉サービス事業者が地域ニーズを把握する場として地域の福祉関係者と情報交換を行うような機会を設けましたか。	Q3 1はい 2いいえ	Q3 民生委員・児童委員や福祉推進員といった地域の担い手の役割を住民に周知していますか。	Q4 1はい 2いいえ	Q4 隣近所において、お互いに気にかけて関係を築くため、日常生活単位で行われているサロン活動等がありますか。	Q5 地区において、見守り体制の整備に努められていると思いますが、具体的な取組内容や体制について教えてください。
30		1	・健康福祉まつり、福祉講演会、福祉研修会	1	・デイサービスセンター所長が福祉委員会の構成員。	1	・各地区の福祉推進委員等で構成している福祉委員会で実施する福祉関係の事業の様子を隔月発行の住自協だよりで衆知している。	1	・令和元年度 20サロンが活動している	・友愛会会食会(毎月第3水曜日) ・民生委員による訪問、声がけ ・協議体での意見によるコミュニティカフェ構想
31		2	福祉推進については地区では地区社協(任意団体)が事業を推進している。 また、今後については地区社協の事業の計画とし、福祉推進員の協力の基、学びの場をもうけていきたい。	1	地域包括センターと情報交換を行った。	1	住民自治協議会、地区社協の広報誌により周知している。 (年1回程度)	1	行政区及び組ごとのサロンが毎年2か所増の計画を行っている。  28年度 14か所 29年度 15か所 30年度 15か所 31年度 17か所	一人暮らし安否確認を実施している。 (登録制 32名 往復はがきによる安否確認)  ・課題 高齢者夫婦の安否確認も検討していく。
32		1	★地区ふれあいまつり 住民自治協議会健康福祉部会のつどい班が地区全体に呼びかけて実行委員会形式で行っている。令和元年度で32回開催。実行委員会の中には民生委員、中学校、高校、社協(老人福祉センター・介護事業所)NPO法人、親世代男性の仲間グループ、地域づくり団体、医療生協、お話し会ボランティアグループ、まちの縁側、オレンジカフェ等が関わっている。今年度は中学生がボランティア参加し好評であった。他地区や住民自治協議会の協力もある。 ★長寿を祝いクリスマスを楽しむ集い等 健康福祉部会ふれあい班が中心になり開催。高齢者は長寿であることをお互いに喜び合い、クリスマス地区全体で楽しもうと開催。午前中は保育園、小学校、中学校、高校の生徒が歌や合奏などで楽しませてくれる。会場の高齢者、障がい者、スタッフ全体がふれあいながら楽しい時間を過ごしている。	1	★ネットワーク 住民、福祉関係者が情報交換や課題を共有し課題解決に取り組んでいる。毎月1回開催。	1	★「月間こよみ」や、サロン通信(ボラセン便り)、福祉部会報等で周知。 民生委員と福祉推進員の合同研修会を開催。 推進員の活動報告の模造紙を人が集まる場所に展示。 (民生委員の担当は市民担当なので、直接周知はしていない)	1	★小地域ごとに「いきいきサロン」を開催し、見守り活動をしている。 (18カ所)	★研修会、アンケート、座談会、住民による寸劇等を通して意識啓発を行っている。

NO	地区名	<p>Q6 地区における地域福祉推進の取組として、特に大事だと考えている取組を5つ紹介してください(Q1～Q5までの取組と重複可)。</p> <p>エピソード1</p>	<p>また、取組によって「こんなことが起こった」というような紹介したくなるようなエピソード等があれば併せて紹介してください。</p> <p>エピソード2</p>	エピソード3	エピソード4	エピソード5	その他(意見)
30		<p>(構成メンバーの例・・・福祉推進委員、正・副 区長、福祉協力員、民生委員、サロン代表者、 消防団代表、防災指導員等)</p>	<p>協議体での話し合いの意見の集約の実現</p>	<p>・メンバーの高齢化、減少によりサロンの継続が困難になり2,3年の間に活動を休止するグループが増えているため、移住者、若年の方に仲間になってもらいたい。</p>	<p>・依頼者からの相談、雑談の中から新しい+</p>	<p>介護予防体操、いきいきクラブ等住民参加の場づくり</p>	
31		<p>サロン事業 福祉推進員、保健指導員、サロン代表者、 民生児童委員と一緒に 活動できるよう進めていきたい。 特に、山間地域のサロンの実施について取 り組んでいく。</p>	<p>ボランティア活動 中学生、高校生を対象に地区の福祉施設に体 験ボランティアを実施している 終了後アンケートを提出していただいている。 将来の職業の目標になるような感想がある。</p>	<p>高齢者の集い 女性に限る料理教室(彩りキッチン) 高齢者の一人暮らしの女性からの 要望があり栄養管理士を講師として実 施。 参加者 15名</p>	<p>福祉移送サービス 運転手の確保に苦慮している。 病院への送迎だけではなく地区に沿った 利用方法検討中。</p>		<p>地区福祉活動計画は、校正段階のため、後日の提出 となりますことを ご了承ください。</p>
32		<p>&lt;地域たすけあい事業&gt; 協会の会員の運転により、地区の自宅の玄 関から長野市内の病院の玄関まで通院でき てありがたいと思います。住み慣れたところ で暮らし続けることができるお互い様の気持 ちを大切にしたい事業だと感じます。 今年度は移送の車を新しく購入しました。そ の時に、愛称を募集し11件の応募がありまし た。選考で選ばれた女性は「年齢と共に痛い ところができたり身体が動かなくなってきたり するけれど、利用者さんが少しでも暖かい気持 ちになれば」とく陽だまり号&gt;に決定しました。</p>	<p>&lt;生活支援グループなかちゃん&gt; 年をとっても地区で安心して暮らしたいという住 民の思いから始まった取組み。 困ったときはお互い様の気持ちを伝え続けてい ます。</p>	<p>&lt;いきいきサロン&gt; 身近なところで集い交流するなかで、 安否確認や健康づくりなど地域で安心 して 暮らす見守り、気遣い、居場所になっ ています。サロンの代表者会議も開催して いますがお互いの情報交換にもなり交 流もしていきたいとの声もでています。</p>	<p>&lt;ネットワーク&gt; 住民や関係機関が月に1度顔を合わせ て情報交換や地域の課題共有、解決に向 けて話し合いを重ねています。ここでできた 繋がりがいざというときの連携にもつな がっていると思います。ネットワークの広が りと周知、役割をもう一度検討することも必 要になっています。</p>	<p>&lt;ずく楽校&gt; 老人福祉センター、公民館、保健師、住民 自治協議会が事務局を担い、運動習慣を身 につけるなど健康づくりを楽しみながら行っ ています。</p>	<p>昨年度は、第三次地域福祉活動計画策定や住民による劇団を立ち上げ寸劇を上演しました。計画づくりでは、中条の歴史、現在、未来をつなげていこうという声があがりました。課題はたくさんあるのですが大事にしたいところの共有が委員のなかでできたと思います。また、ネットワークの話し合いから、支え合いアンケートを実施しました。困ることもある反面、何かしたいという声も多く寄せられました。その後、座談会の開催、そして、頼んだり頼まれたりの気持ちを育むために、住民の劇団による寸劇、ワークショップを開催しました。おなじみの人がステージで演ずる劇を観た人たちが支え合いについて考える機会になったと思います。</p>